

## 第25回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

令和3年7月19日（月）に、第25回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院オーデトリウムにて開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、院内の医師、看護師、薬剤師、栄養士、心理士、MSW など参加され合計29名の参加者となりました。

当院の腫瘍センター井岡達也副センター長より開会の挨拶があり、各演者より事例提示があった後、当院の緩和ケアセンター山縣裕史助教を司会として、シンポジウム形式で2名の先生を中心に討論を行いました。

事例：「在宅・病院・介護施設でつなぐACP～泌尿器がんの高齢独居患者が治療継続しながら地域での暮らしを実現できた事例～」

山口大学医学部附属病院 泌尿器科 助教 平田 寛先生  
B棟7階東病棟 看護師 佐藤 真理子先生

参加者の方々からは、「多職種の意見が聞けて、今後の患者の看護に繋がっていきたいと思う。」「最後に山縣医師がお話しされた「家族の意向」の内容が大変心に残りました。患者さんの気持ちを一番理解できる存在、予測できる存在という認識で、今後介入していこうと思った。」「多職種の方が多くかかわっていく事で、様々な視点で環境を調整することができ、結果的に患者さんへ最適な医療を提供できているのだと感じました。」などの意見が寄せられ有意義な検討会となりました。

この度は、様々な職種の方々に検討会にご参加して頂き、誠にありがとうございました。本検討会は、今後も継続して行う予定ですので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

《検討会風景》



